

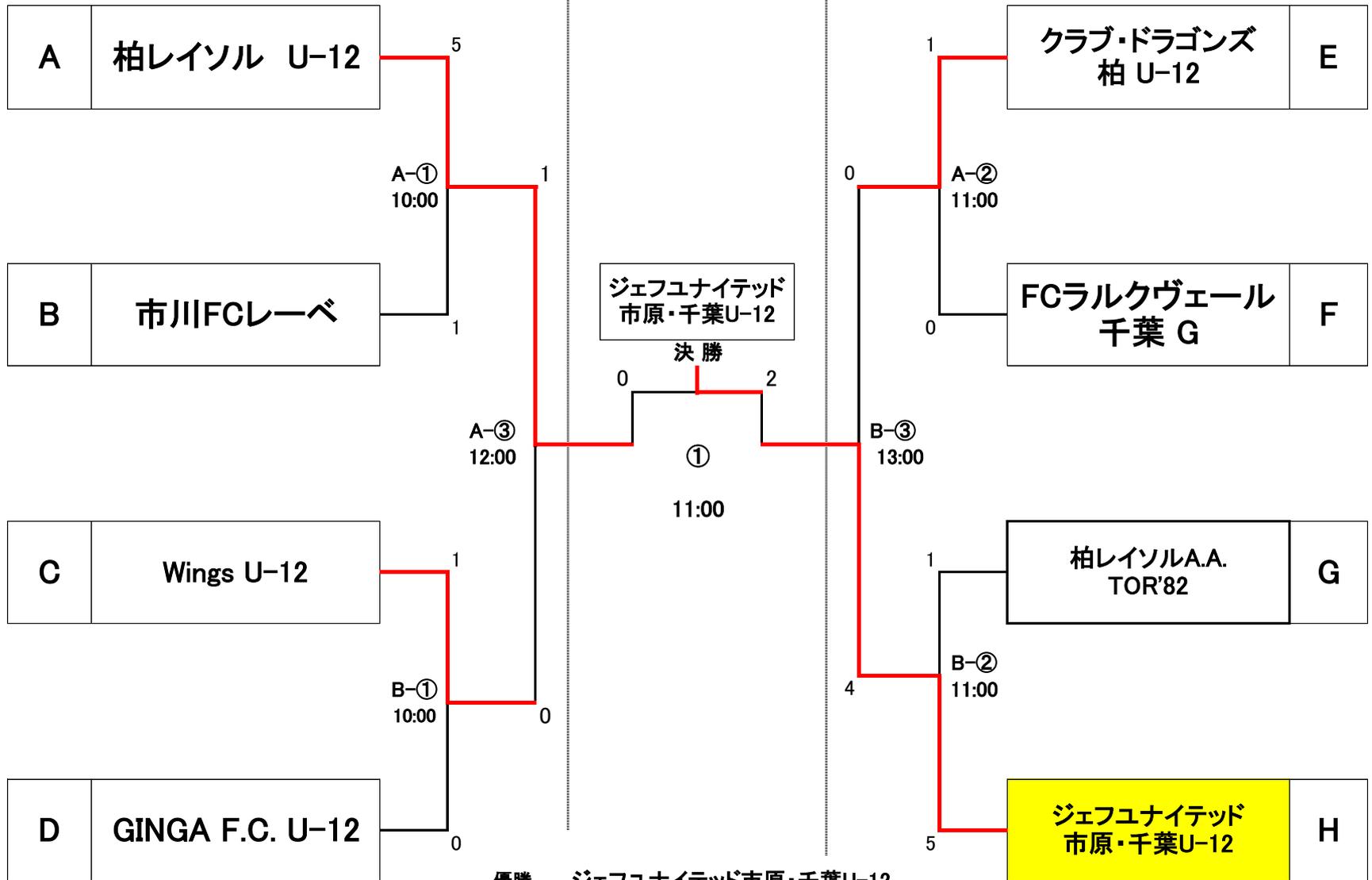
(令和5年度)

JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権千葉県大会

ベスト8・準決勝
11月19日(日)
成東総合運動公園陸上競技場

決勝戦
11月26日(日)
白井運動公園
陸上競技場

ベスト8・準決勝
11月19日(日)
成東総合運動公園陸上競技場



優勝 ジェフユナイテッド市原・千葉U-12

2位 柏レイソル U-12

3位 クラブ・ドラゴンズ 柏 U-12

3位 Wings U-12

優秀選手(16名)

選手名	チーム名	選手名	チーム名
小野 龍希	市川FCLレーベ	宇賀 諒	GINGA F.C. U-12
栗原 悠斗	FCラルクヴェール 千葉 G	児玉 晴紀	柏レイソルA.A. TOR'82
鈴木 陽路	Wings U-12	福原 希実	Wings U-12
森谷 維吹	クラブ・ドラゴンズ 柏 U-12	久保田 和	クラブ・ドラゴンズ 柏 U-12
林田 昂太	柏レイソル U-12	沼田 拓真	柏レイソル U-12
井出 翼	柏レイソル U-12	八木橋 源太	柏レイソル U-12
竹内 奏人	ジェフユナイテッド市原・千葉 U-12	山田 鷹右介	ジェフユナイテッド市原・千葉 U-12
永沼 瑠晟	ジェフユナイテッド市原・千葉 U-12	片切 康誠	ジェフユナイテッド市原・千葉 U-12

JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー選手権大会千葉県大会 決勝

柏レイソルU-12 VS ジェフユナイテッド市原・千葉U-12

0 (前半 0-1) (後半 0-1) 2

会場は素晴らしい環境が整った決勝戦に相応しい白井運動公園陸上競技場で行われた。

千葉県代表を決める組み合わせは、連覇を狙う柏レイソルU-12 (以下「レイソル」と称する) に対して、リベンジを誓うジェフユナイテッド市原・千葉 U-12(以下「ジェフ」と称する)。

昨年と同カード、また、両チーム共に最少失点で決勝戦まで進んできたことから開始前からお互いの盾と矛がぶつかり合う激戦が予想される中、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行初年度、スタンドからは両チームへの大きな声援のもと11時ジェフのキックオフで開始された。

【前半】

両チームのシステムは共に3-3-1。前半の序盤から攻守の入れ替わりが激しい展開となった。前半2分ジェフ14番(田中選手)のロングスローから5番(永沼選手)のミドルシュートが惜しくもゴールバーを越え両チーム通じてのファーストシュートとなった。一方、レイソルは、ジェフのディフェンス背後を狙って1トップ9番(岡野丈選手)にボールを集め、5分10番(堀越選手)がドリブルで仕掛け、11番(八木橋選手)がパスを受けバイタルエリアに侵入し、混戦となったところを再び10番(堀越選手)がゴール前で詰めるも惜しくもサイドネットとなった。

その後、レイソルは個人技を活かした複数人での攻撃を行い、対してジェフは確りとグループで守備を行い、ワントップの9番(竹内選手)のフィジカルを活かしボールを集め、そこから攻撃の起点となって展開していくなど両者譲らず素早い攻守切り替えといった一進一退の攻防が続いた。

前半17分レイソルに決定機が訪れる。センターバック5番(沼田選手)の中央突破から、20番(井出選手)、9番(岡野丈選手)へとダイレクトパスで崩し、そして再び20番(井出選手)が受けスルーパスから11番(八木橋選手)がシュートを放つ。GKが弾いたボールはそのままゴールに向かうも、ゴールラインの手前でジェフにクリアをされる。その後レイソルは人数を掛けて再びシュートを放つもジェフの堅い守備に阻まれる。

そして19分ついに均衡が破れる。弾き返したボールをジェフ10番(片切選手)が、素早いカウンターで左サイドから駆け上がり、ミドルサードでレイソルのディフェンスを個人技で剥がしゴール前3対1の状況を作り出す。レイソルのセンターバック5番(沼田選手)は数的不利の状況下でも中をケアしつつ最後まで粘り強く対応するも、10番(片切選手)が狙いすましたシュートはゴール右隅に決まり見事な先制点をあげる。

スコアが動いた後も、両チーム共にインテンシティーとクオリティーが落ちることなく前半終了を迎えた。

【後半】

レイソルは後半開始から10番（堀越選手）に代わり、8番（高倉選手）を投入。序盤はレイソルのペースで進み、ジェフのゴール前に侵入する機会が増えた。一方、ジェフも守備の距離間を一定に保ち粘り強く対処し、レイソル攻撃を防いだ。また、レイソルも前半同様にトップの9番（岡野丈選手）に早い縦パスを狙うも、ジェフの4番（山田選手）と5番（永沼選手）のチャレンジ&カバーで思うように前を向かせない守備を行った。追いかけるレイソルは高い位置からアプローチを掛け、セカンドボールを回収し、個人技を活かして果敢にジェフ陣内に挑んだ。中盤に入り両チーム共に前半からのハードワークにより疲労が徐々に表れ、徐々に背後を狙う大きなボールを放り込む展開になってきた。

そして後半14分スコアが動いた。ジェフのゴールキックから左サイドバックに預け、素早くレイソル最終ラインの背後を突き、9番（竹内選手）がゴール前まで持ち込んだ。そのまま中央で待っていた10番（片切選手）へラストパス、冷静にゴールへ流し込み追加点をあげる。

その後も、レイソルは決して諦めず、更に前線から積極的にアプローチを掛け、何度もジェフのゴール前を脅かす展開となった。背後と取られるリスクはGKが対処し、セカンドボールを回収し続けた。

後半17分レイソルに決定機が再び訪れる。レイソル4番（林田選手）からのクロスボールを12番（岩谷選手）がヘディングで合わせるも僅かにゴールから逸れる。残り1分間レイソルの猛攻が続き、立て続けにコーナーキックからシュートを放つもジェフの身体を張った守備に阻まれる。

ジェフは最後まで集中を切らさず試合終了のホイッスルを迎えジェフが勝利し全国大会出場を決めた。

【総括】

両チーム共に決勝に相応しいU12年代では非常にレベルが高い拮抗した素晴らしい試合内容であった。特に、『ゴールを奪う』『ボールを奪う』といったサッカーにおける非常に重要な部分において、両チーム共に、プレーの質、強度、そしてそれを支える精神的な強さは、全国を勝ち抜くには必要な基準として体現していたと思う。また、トーナメントを通じて優勝したジェフは決勝含め19得点2失点、レイソルは18得点3失点と数字の面でも表れている。

最後に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となって、少しずつ以前の様な形に戻りつつあるが、今大会の開催から決勝戦を終え、あらためて、チーム・指導者・選手・保護者・大会関係者等、沢山の皆様のご理解とご支援があって無事に終了できたことを関係書の一人として深く感謝を申し上げます。

また、選手達はこの様に沢山の皆様に支えられサッカーができること、これは決して当たり前ではないことを忘れないで欲しいです。

惜しくも敗れたレイソルは最後まで諦めなかった姿勢は今後心身共に強く成長へと繋がる筈です。優勝したジェフは千葉県の代表として全国大会での活躍を期待しています。

（文責：千葉県サッカー協会4種委員会技術委員 岡野拓也）